

## まえがき

本報告書は、2014年度教育学実習「統計的調査実習」（第1学期月曜2~3限）で実施した「若年者のライフスタイルと意識に関する調査」の結果を取りまとめたものである。本報告書には、調査設計と回収状況に関する基本的事項を整理したレポートのほか、受講生による調査研究結果を報告したレポートが所収されている。

本年度も、調査の企画・設計、実施、分析、そして報告にいたる過程のうち、多くの作業を山形大学地域文化教育学部「社会調査演習」（担当：山本英弘准教授）と連携しておこなった。この連携は震災直後の2011年度の実習より継続されているが、それぞれの受講生が緊張感をもって調査と向き合うことができること、異質な意見やものの見方に触れられることなど、貴重な機会となっていることは間違いない。

この実習での調査ならびに授業の運営にあたっては、TAによる貢献が多であった。受講者個人への課題が11回、班での報告が6回と、受講者のみならず彼女・彼らを支えるTA諸兄にとっても、きわめて負荷の大きい授業であったことは想像に難くない。TAのまとめ役として、時には厳しい査読者として活躍してくれた、濱本真一さん（博士課程後期2年）、授業での指導や担当した班への助言で力を発揮してくれた、池田岳大さん（博士課程前期1年）、工藤沙季さん（博士課程前期1年）、下瀬川陽さん（博士課程前期1年）に、感謝申し上げたい。

それから、このような負担の大きい調査実習を受講して、最終レポート提出までやり遂げてくれた学部学生の皆さんの労もねぎらいたい。君たちなしには授業は成立できなかったし、このように報告書を刊行することもかなわなかった。単位を与えているので謝意を示すことはしないが、君たちと共に調査実習ができて幸せだったと心から思う。

また、連携してくださった山形大学の山本英弘先生に、御礼を申し上げたい。我々のなかからは出難い、別視点からの貴重なコメントをたえず賜り、受講生たちの刺激に大いになった。いただいた恩恵に十分応えられているかはやや心許ないが、本学の受講生たちなりに真摯に取り組んだことは、報告書をご一読くだされば伝わるのではないかと思う。

今回の調査では、株式会社楽天リサーチにご尽力いただいた。また、調査へのご協力くださった調査対象者の方々にも、ここで謝意を表したい。本報告書が、調査に関わったすべての方にとって、ささやかなりとも意義あるものとなることを祈っている。

最後に、東北大学教育学部「統計的調査実習」をよりよきものとするよう、教員・TA一同励んでいく所存である。今後とも、皆様からのご指導ご支援を賜るようお願いしたい。

2015年3月  
三輪 哲  
秋永 雄一